



『地域と共存するスポーツ少年団を目指しませんか』

1. スポーツ少年団活動

日本スポーツ少年団の創設とその意義

●昭和37年6月23日に財団法人日本体育協会創立50周年記念事業として創設されました。本来、発育発達期にある子ども達にとって、スポーツを継続的に行うことは非常に大切なことです。スポーツを正しく実践することによって、精神的にも身体的にも望ましい効果が期待できます。

また、将来に向かって伸びていこうとする子ども達は、どんな環境にあっても自分を見失わず、力強く生き抜く力を持つことが必要です。そして、その力を養う機会、つまり子ども達が自らの力を育てるための場は、生活と結びついた地域社会の中で、子ども達の集団による社会活動の場以外にありません。

そして、スポーツがその原動力となるのです。(早寝・早起き・朝ご飯・十分な運動で正しい生活リズムが確立できる)ここに、子どもの居場所となるべきスポーツ少年団存在の意義があります。

●理念

- 「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する。」
- 「スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる。」
- 「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する。」

●メンバーシップ制

年度ごとに団員、指導者の登録が必要です。(継続)

●スポーツ少年団の5つの要素

- ①だれが=子ども達が
- ②いつ=自由時間に
- ③どこで=地域社会
- ④なにを=幅広いスポーツ活動を
- ⑤どのようにして=グループ活動で行っている集団です

●SHIPSの由来

「SHIPS」はスポーツ少年団のニックネームで、スポーツ少年団という大きな舟、大きな集団体という意味です。以下にスポーツ少年団の目標を表記しました。

- ①スポーツマンシップ=ルールやマナーを守り、スポーツする心がまえ
- ②フレンドシップ=友達を大切に
- ③リーダーシップ=チームを引っ張る
- ④メンバーシップ=仲間とともに、自分はどうするべきかを考えて行動

単位団スポーツ少年団

自主的に参加して子ども達と、活動をよりよくするために補助的な役割を果たすリーダー、適切な指導・助言で子ども達の能力を引き出しより良い社会人へと導くことができる指導者、地域の中で財政面、労力面、精神面にわたって単位団を支えてくれる育成母集団（母体となる集団＝団員保護者、元団員、元保護者、スポーツや青少年活動に理解のある方、自治会や商店会などスポンサー的な理解のある方などで構成）が重要なメンバーとして組織を確立していきます。

- 単一種目型・・・年間を通じて、ひとつの種目を行う
 - 並行種目型・・・年間を通じて、数種目を指導者や会場の都合・季節や性別・年齢別などに分けて行う
 - 複合種目型・・・年間を通じて、いろいろな種目を行う
- また、発育発達段階を考慮した上記スポーツ活動のほかに、文化・学習活動、野外・レクリエーション活動、社会活動、運動適正テストがあります。

各市町スポーツ少年団

地域にある単位団を集約しています。県スポーツ少年団へ登録申請をするほか、市町スポーツ少年団の行事の計画・運営新規登録団の認定や団員・指導者・育成母集団の資質向上をはかる研修事業、国際交流事業への参加、競技種目ごとに行う交流活動と競技種目にとらわれずに行う交流活動、安全対策などを行います。

滋賀県スポーツ少年団

市町スポーツ少年団によって構成され、市町スポーツ少年団代表者を中心に、体育協会役員や学識経験者などで運営されています。また、市町スポーツ少年団から登録があった単位団をまとめ、日本スポーツ少年団へ登録申請するほか、リーダー・指導者・育成母集団の育成や研修、全国大会・近畿ブロック大会・国際交流事業へ団員・リーダー・指導者の派遣、各種広報活動・表彰などを行います。



2. 指導者の役割について

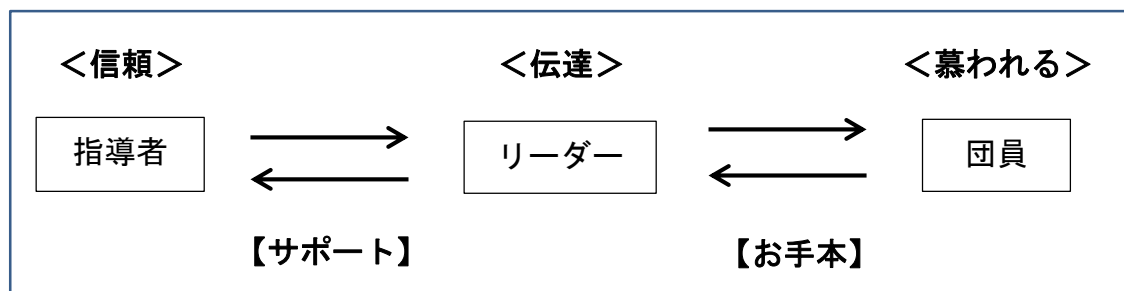
団の運営をする人・専門技術を伝える人・地域との協力や資金確保をする人が必要です。子どもの心身の発達や将来に大きく関わるため、たとえボランティアであっても子どもを指導する立場である以上、法的・社会的貢献を負います。そのため、指導者は常に研鑽を重ね自分自身の資質の向上に努める事が望まれます。

また、女性指導者の拡充も大きな課題となっています。例としては、性差における細やかな対応ができるなどが挙げられると思います。ご賛同お待ちしております。

3. ジュニア・シニアリーダーとは

ジュニア・リーダー（小学5～中学3）の役割

年少団員のまとめ役や指導者の補助的な存在となる団員で、体験から得た楽しさやすばらしさを理解することは、単に実技指導ができるにとどまらず、人格や識見、豊富な知的とコミュニケーション能力を高める上で大変意義のある役割になります。



ジュニア・リーダースクール

リーダー養成事業のひとつで、毎年11月に開催されています。8月には「スポーツ少年大会」も開催されています。なお、今年の8月は、「近畿スポーツ少年大会」が滋賀県の希望が丘文化公園青年の城で開催されます。（共に2泊3日）

また、開催都道府県では、団員やリーダーが生き生きと活動しているようです。

シニア・リーダー（高校1～19歳）の役割

ジュニア・リーダーと同じく、単位団での年少団員のまとめ役や指導者の補助的な存在となる団員で、体験から得た楽しさやすばらしさを理解することは、単に実技指導ができるにとどまらず、人格や識見、豊富な知識とコミュニケーション能力をさらに高める上で大変意義があります。

また、シニア・リーダーが地域や市町規模で集まり「リーダー会」を作ってリーダー自身の資質向上をはかったり、情報交換を行うなどの活動を深めることにより、コミュニケーション能力だけでなく、コーディネート能力も高めます。

シニア・リーダースクール

リーダー養成事業のひとつで静岡県の国立中央青少年交流の家で8月中旬に開催されています。（4泊5日）講義やグループディスカッション等を実施。

県リーダー会（16歳～22歳で構成）

県スポーツ少年大会やジュニア・リーダースクール運営の中心として活動しています。それぞれが多忙な状況にありながらも、参加してくれる団員達に「充実した三日間を！」の強い気持ちで「ポジティブな葛藤」を繰り返しながら活動してくれています。

なお、全国的な集まりとして資質向上とネットワーク作りの主眼とした「全国スポーツ少年団リーダー連絡会」も開催されています。さらに、将来指導者になるための資質を高めるため、国際交流（日独スポーツ少年団同時交流など）にも参加・活躍しています。

4. 団員登録を続け、リーダーになりませんか

多くの単位団では、小学校卒業と同時に「スポーツ少年団登録はできない」と考えておられると思います。中体連や高体連との両立が難しいことも要因のひとつでしょう。しかしながら、子ども達の才能は「多種多様」ではないでしょうか。

選択肢を広げるひとつの方法として「団員登録を継続」していただき、自信の進む方向性を見つけていただければと期待しています。

5. 循環体制（団員から指導者へ）を目指して

日本スポーツ少年団では、「日本スポーツ少年団指導者制度」に定める「スポーツ少年団認定員」や「スポーツ少年団認定育成員」の資格を、多くの指導者が取得されることを求めています。

●リーダーから指導者へ

ジュニアとシニア・リーダー資格取得後20歳まで団員活動を継続し、所定単位を取得した場合、市町スポーツ少年団の推薦を受け、県スポーツ少年団に認められれば、スポーツ少年団認定員に資格を移行できます。(スポーツ少年団の循環体制確立へ)

●指導者から認定員へ

毎年行われている2日間の講習会を受講し、試験の合否で認定員として認められます。(スポーツ少年団指導者登録を継続していれば認定員の資格も継続されます。)

6. 2024年は「2024滋賀国体」があります

スポーツの祭典である国民体育大会は、終戦後の翌年、昭和21年(1946年)に京都を中心に開催されました。滋賀県は昭和56年(1981年)に初めて国体会場となり、たくさんのスポーツが飛躍することになりました。なお、参加資格は14歳以上です。

今回、各方面の尽力により、「2024滋賀国体」が平成36年(2024年)に開催されます。総合開会式は彦根市になりました。

2024年、みなさんはどのような関わりをされているのでしょうか。
選手・指導者・運営役員・リーダー・サポートなど、いろいろな立ち位置で
関心をもって成功させませんか。



参考文献：日本体育協会、日本スポーツ少年団テキスト